山梨県立考古博物館
館長講座　第２回

2026年11月８日

# 縄文時代の過剰装飾土器について

ー縄文中期土器と晩期亀ヶ岡式土器から探るー





山梨県立考古博物館
館長　高橋龍三郎

# 講座の内容（過剰装飾の謎）

- 料理の四面体理論
- 縄文土器の実態　中期土器の立派さと過剰装飾
- 日常の使用
- 埋葬への転用　埋甕、炉体土器

- 東北地方晩期・亀ヶ岡式土器の非実用性
- PNG民族誌の事例
- 土器製作者の特殊な心性（精神世界）
- 精霊、死霊、

# 土器の機能と合理性

## 料理の種類と調理法

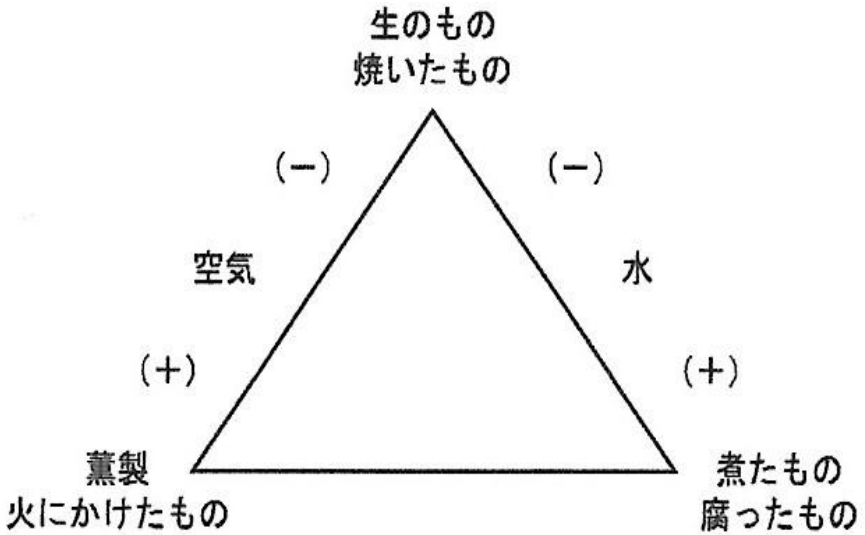



図 1.　料理の三角形

レヴィ＝ストロース2008『食卓作法の起源　』みすず書房

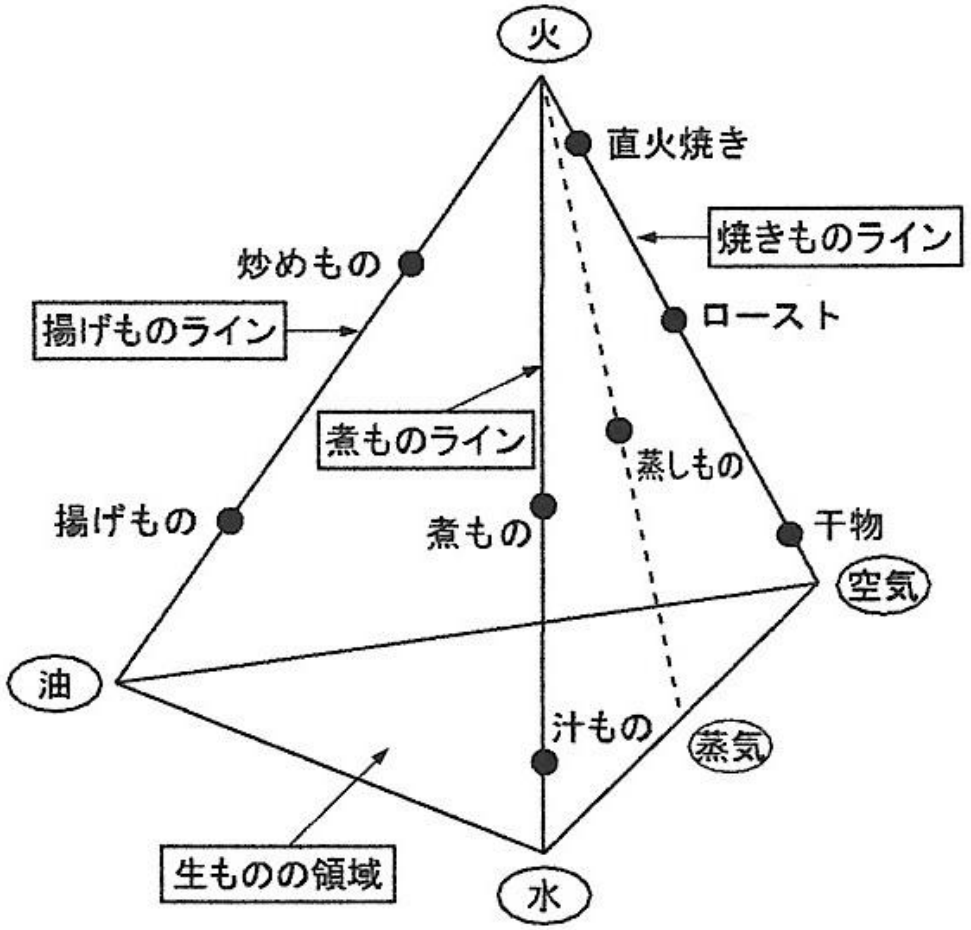
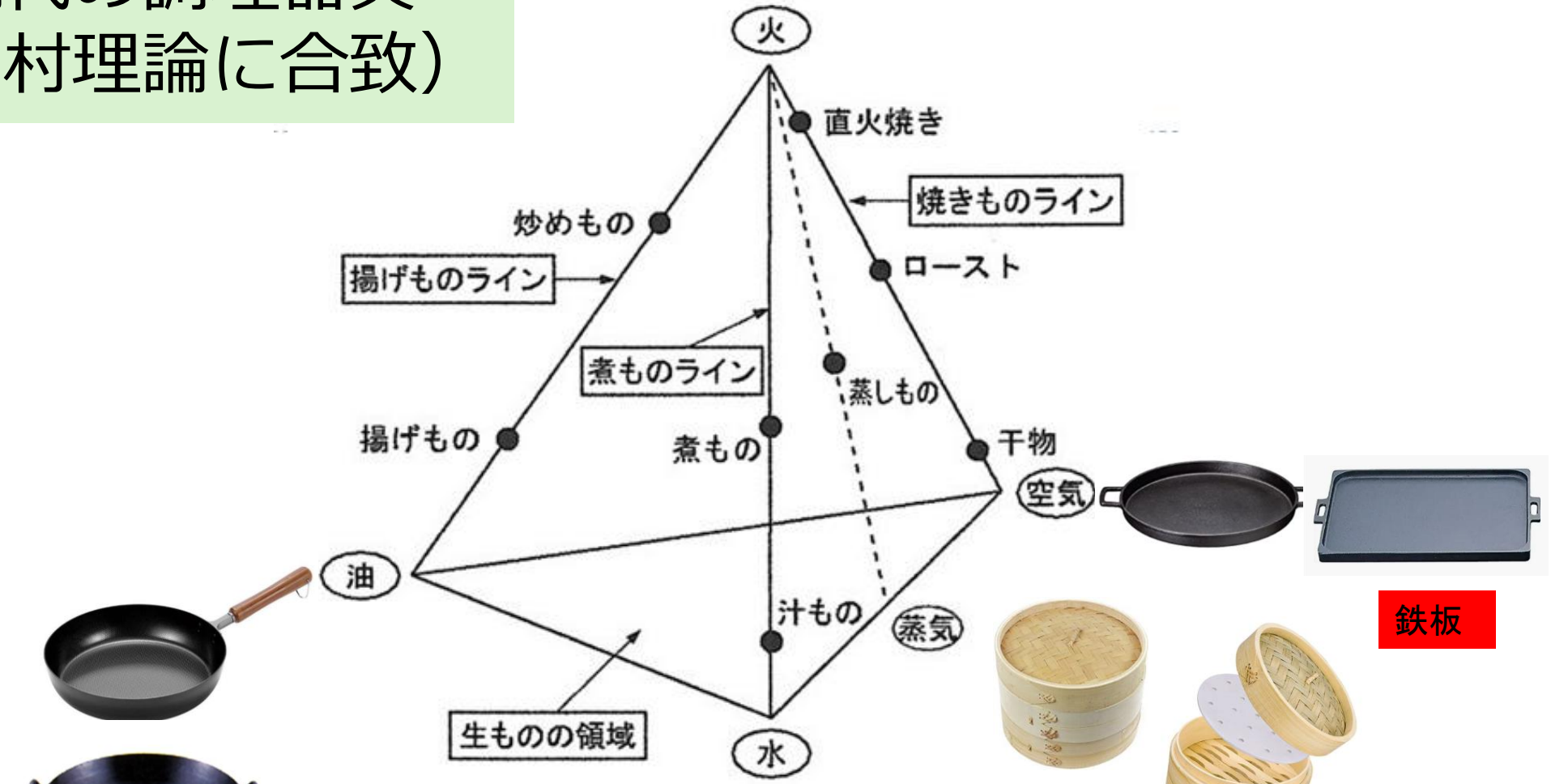



図 2.　料理の四面体

資料：玉村豊男著，『料理の四面体』，p. 183，鎌倉書房，1980　一部加筆。

玉村豊男1980『料理の四面体』鎌倉書房

# 現代の調理器具
# (玉村理論に合致)








フライパン
支那鍋

深鍋







蒸し器

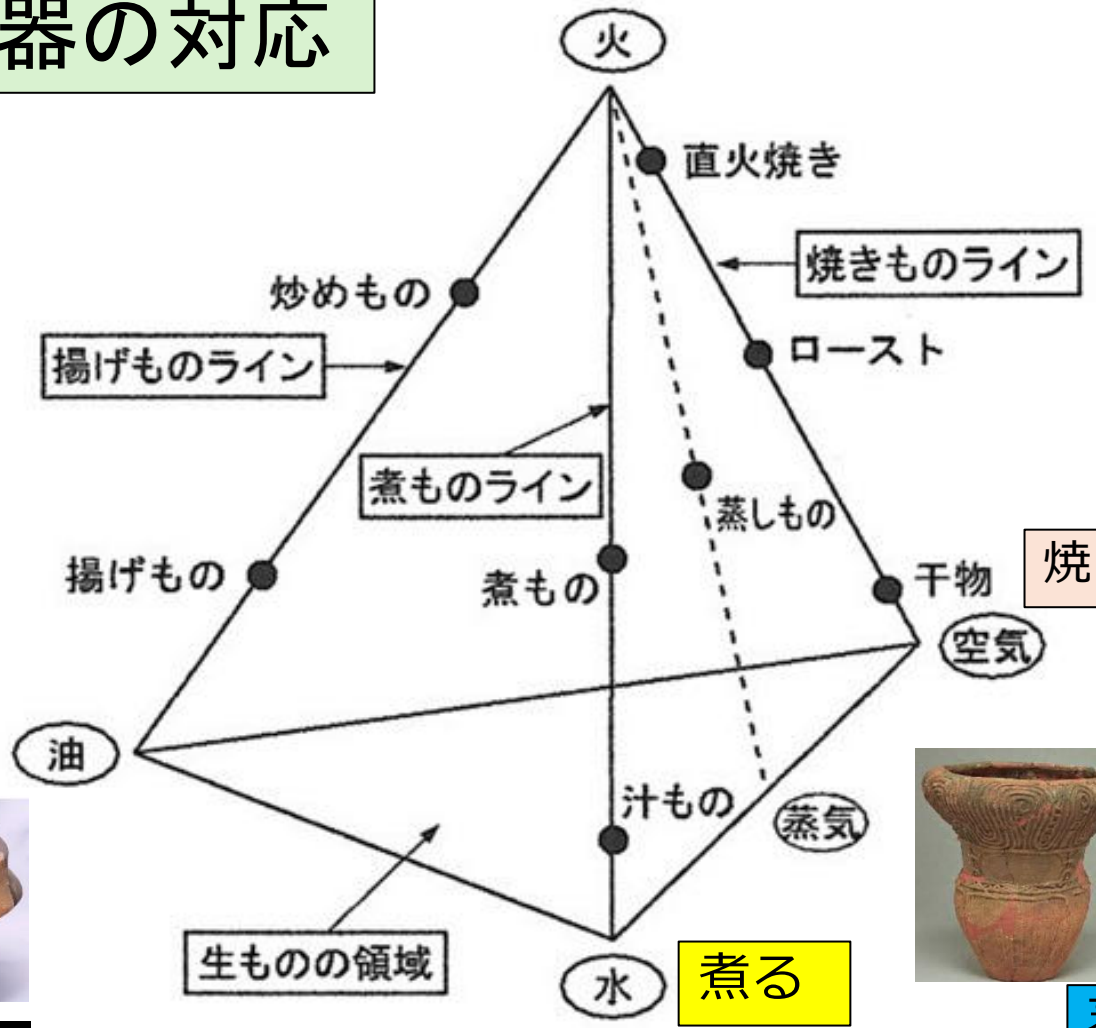




鉄板

# 調理法と縄文土器の対応

土器の器形は調理法と相関性が弱い？




適切な器種がない



？









蒸す？

# 深鉢が多い

- 油で炒める料理＝フライパンや浅い器は無い
- 焼く料理＝薄く平たい器は無い
- 煮る、煮込む、蒸す料理＝深鉢
- 縄文時代の土器は深鉢に主体がある
- 炒める、焼く料理は土器で行わなかったのか？
  それとも料理法が無かったか

# 深鉢：煮るといってもこれでは…



新潟県十日町笹山遺跡の火焔型土器

# 過剰に装飾された土器の謎

- 一般に、縄文土器は調理や煮炊きなどの実用に供されたと考えられている。

- しかし、次の点で課題が残る。

１．過剰な装飾は煮炊きには不向き。

２．蛇などの守護霊的な表現は煮炊きには不要。

３．物語的な図像は調理に必要か。

# 仮説：中期土器の大型、過剰装飾の理由

- 大型で重厚な造り（深鉢）
- 直径30～40cm、高さ60cmの大型深鉢が多い。家庭料理用ではない。数十人分の料理ができてしまう

⇒家庭を前提とした毎日の調理には不向き

⇒文様や突起、把手などは煮炊きなどの実用には不適切

※文様や突起、把手は呪術的要素を含む

- 最終的に埋甕に転用される⇒死者の発生に関係か

仮説：土器製作には製作の時点で、死者の発生を見越した呪術的要素が盛り込まれるのではないか

# 過剰装飾の土器





新潟県の火焔土器（笹山遺跡等）



甲州市釈迦堂遺跡

『縄文王国やまなし』九州国立博物館編2019



北杜市津金御所前遺跡

山梨県立考古博物館編2015『縄文の美』第33回特別展カタログ



甲ッ原遺跡



安道寺遺跡

# 鋳物師屋遺跡の不思議な人物表現






南アルプス市　ふるさと文化伝承館蔵

# ヘビを頭部にいただく顔面突起：ヘビは守護霊か

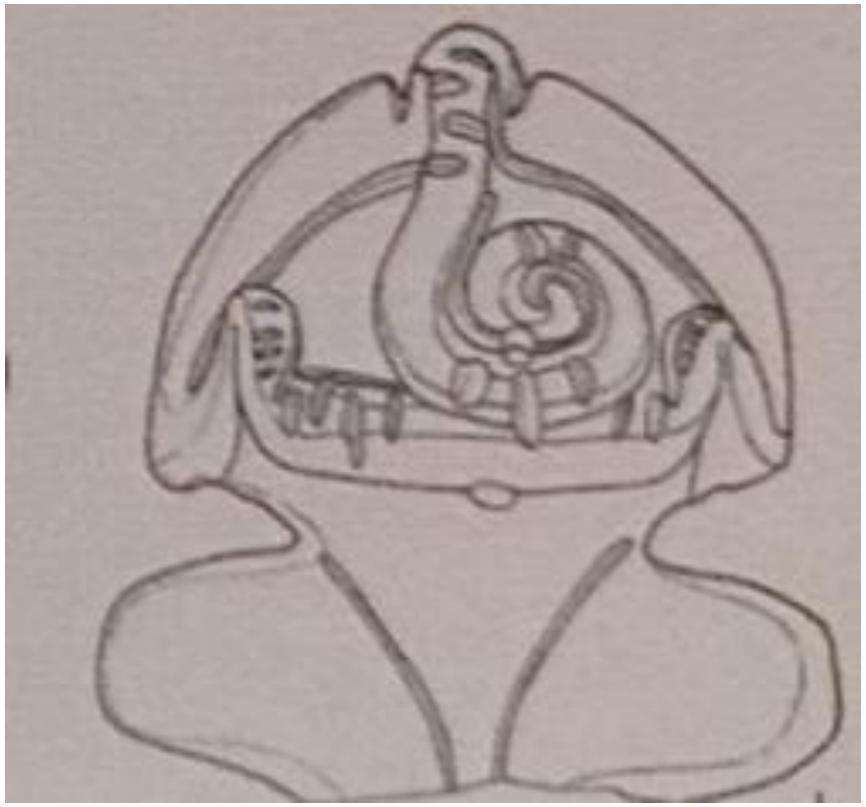


山梨県韮崎市穂坂町出土. 縄文時代(中期)

文化遺産オンライン：https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/497517

# 頭にヘビをいただく土偶：ヘビは守護霊か





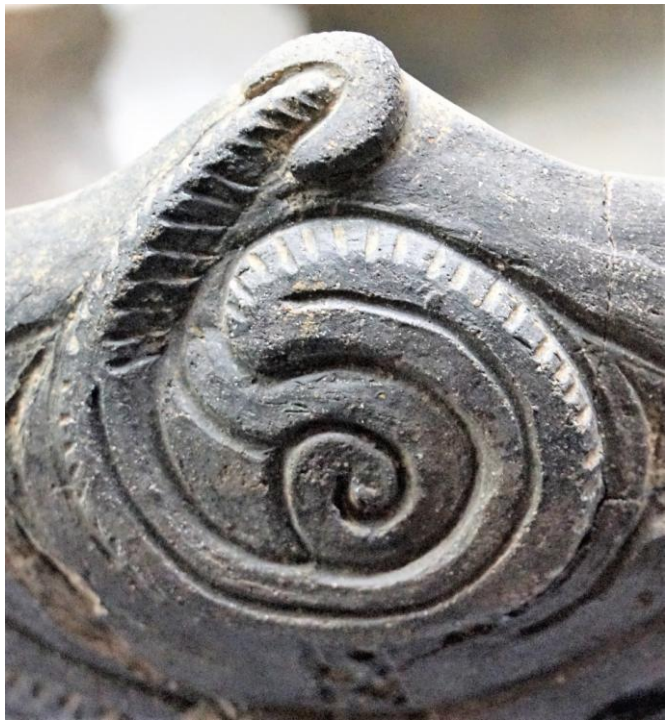
山梨県一の沢遺跡の土偶（本館蔵　通称イっちゃん）

# 中期の動物造形

ヘビはどのような役割を果たしたのか



山梨県一の沢遺跡（本館蔵）



ヘ　ビ

# 物語性の文様



北杜市
石原田北遺跡



蛇・人体合体文様



ヘビ表現

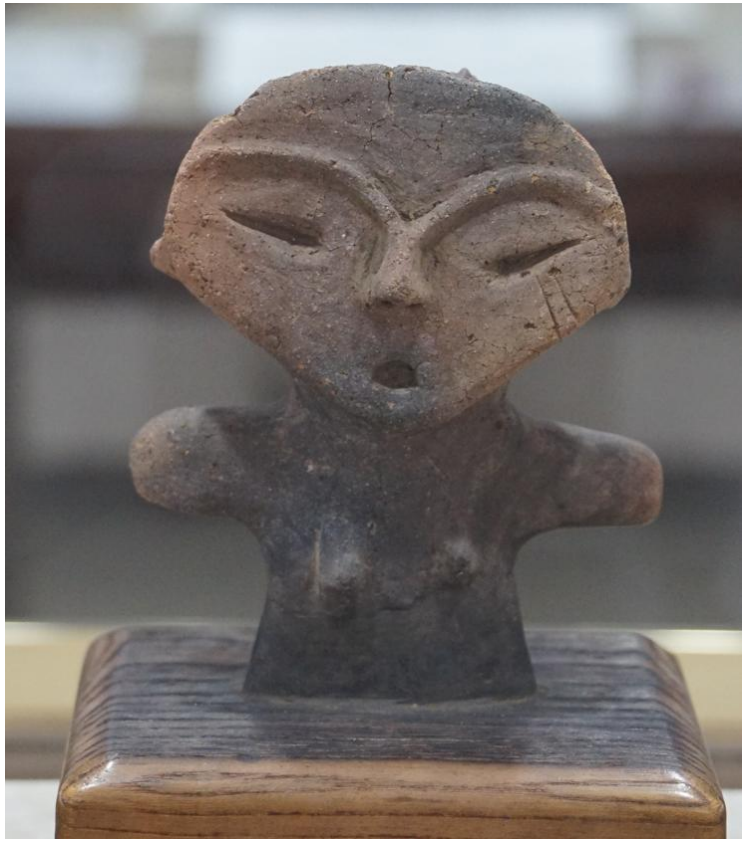


山梨県立考古博物館2015『第33回特別展　縄文の美』

# 頭にヘビを戴く女
# （長野県井戸尻遺跡）

呪術師、妖術師か







# なぜ土器は守護されるか

## １．土器の機能と関連するからか

- 日常の煮炊きと関わり、食料を保護する？
- 他の容器機能と関連か。
- その機能は何か

## ２．誰が霊性を付与するか⇒土器製作者？

・土器製作者の性格と関連か
・土器製作者そのものが霊的存在なのではないか
・土器に霊力を与えることができる⇒シャーマン、呪術者

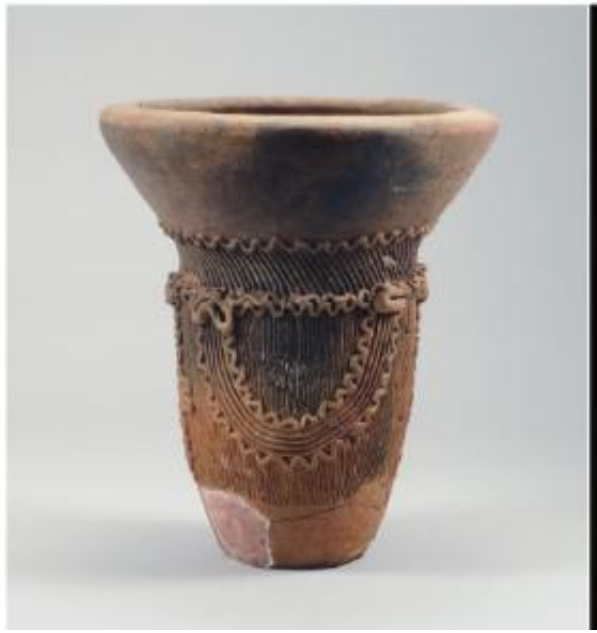
# 安道寺遺跡17号住居内土坑

把手が特別な意味を持つ例





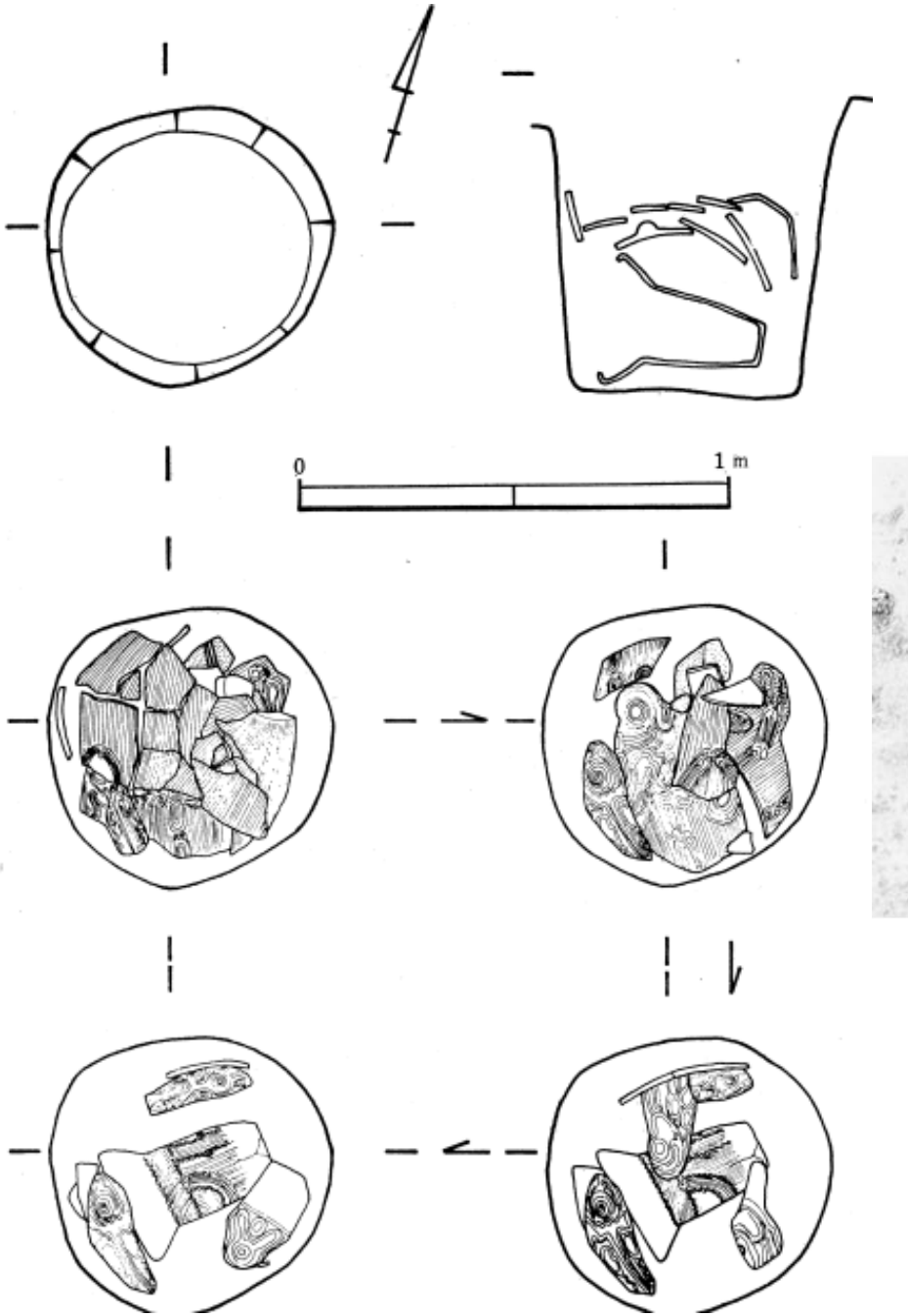
本館蔵





水煙形把手（イノシシ＋ヘビか）

# 安道寺遺跡17号住居内土坑（土坑内の深鉢を保護するような取手の配置）








山梨県教育委員会 1978 『安道寺遺跡調査報告書』

# 最終的に砕かれた土器：
## 容器の機能を離れて他を守るために転用

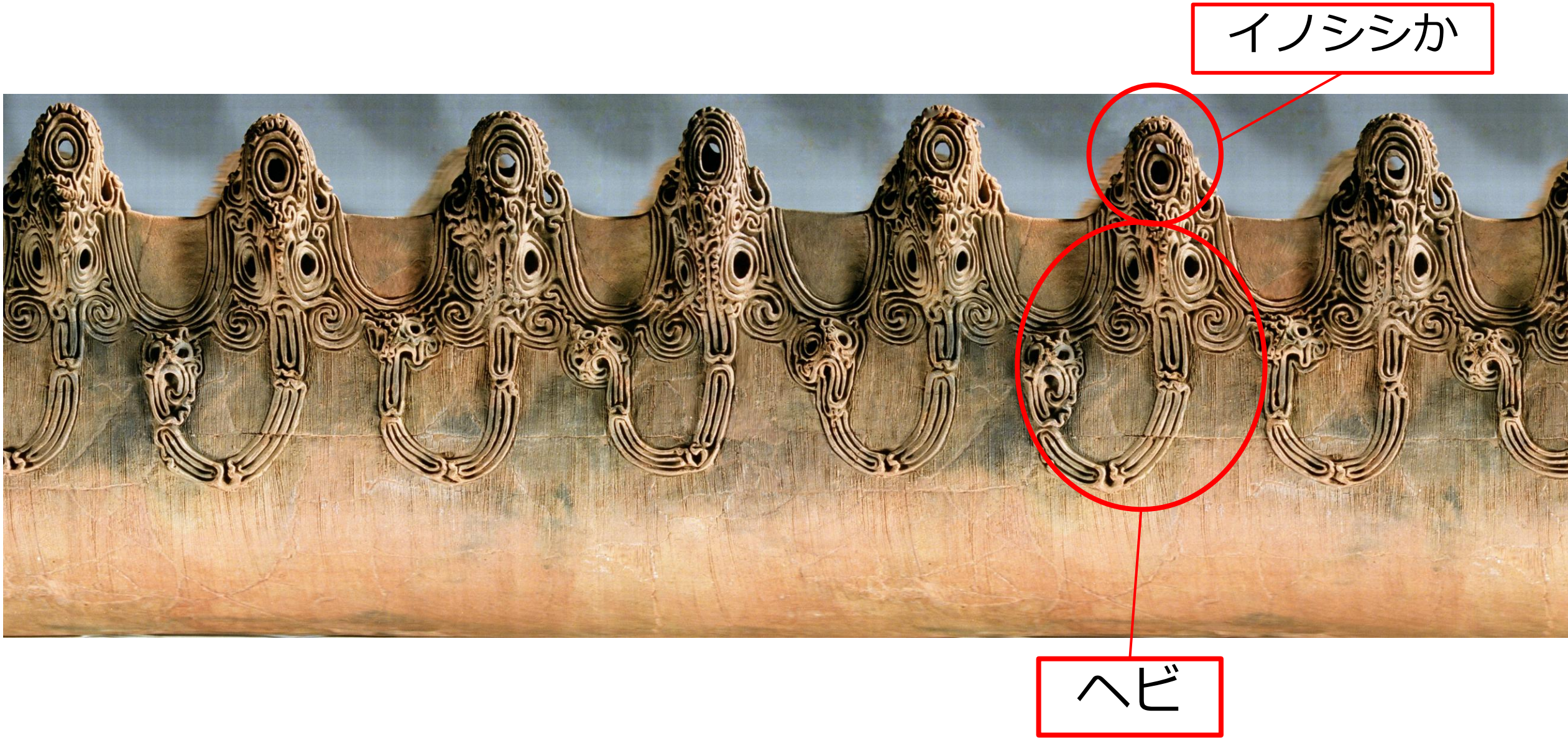


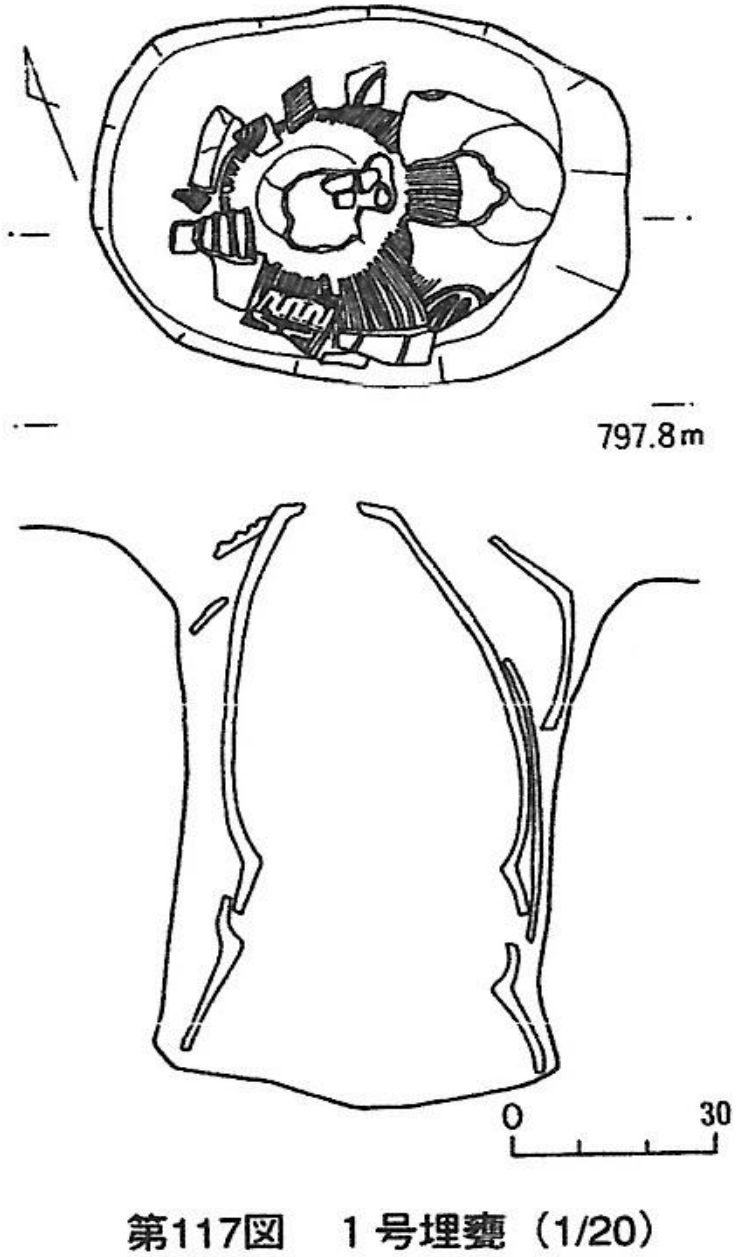
この事例では、土器は煮炊き機能を離れて、儀礼用に転用。

把手4個は下の深鉢を守るように配置。

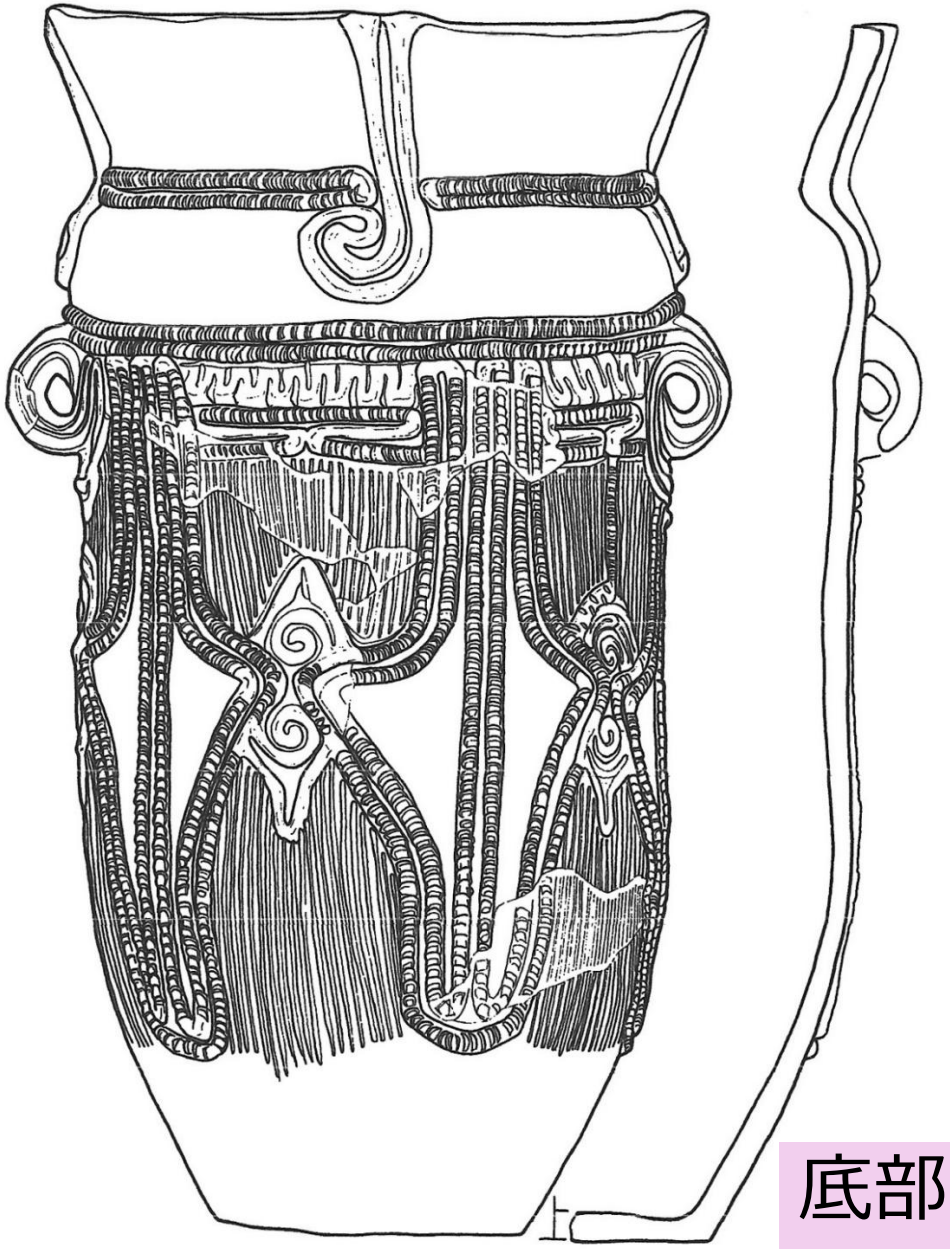
取手の煩雑さと怪奇さは、死者の葬送に関わる儀礼的・心霊的な行為・信仰の可能性が高いのではないか

# 安道寺遺跡17号住居内土坑出土土器






第117図　1号埋甕（1/20）




埋葬に転用
された土器

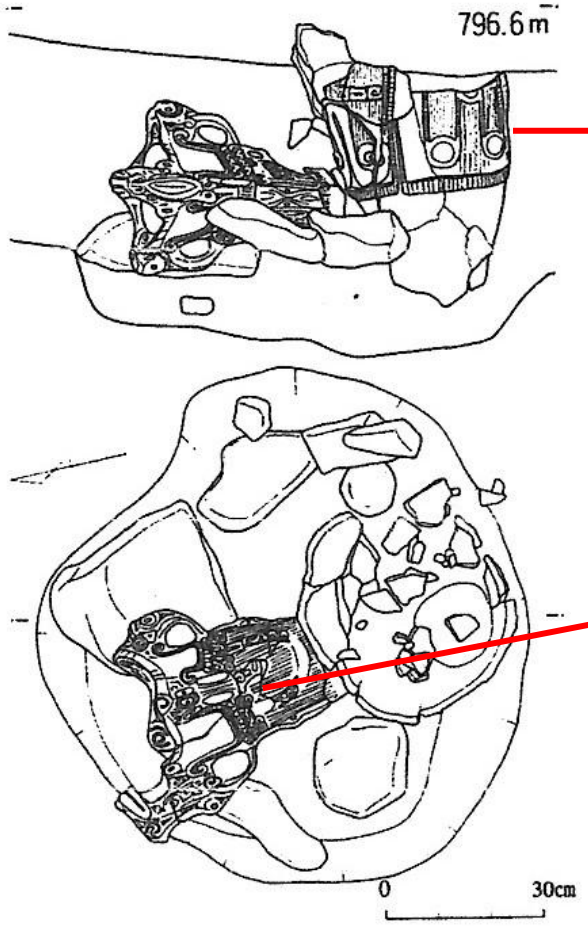
底部が穿孔される

甲ツ原遺跡1号埋甕

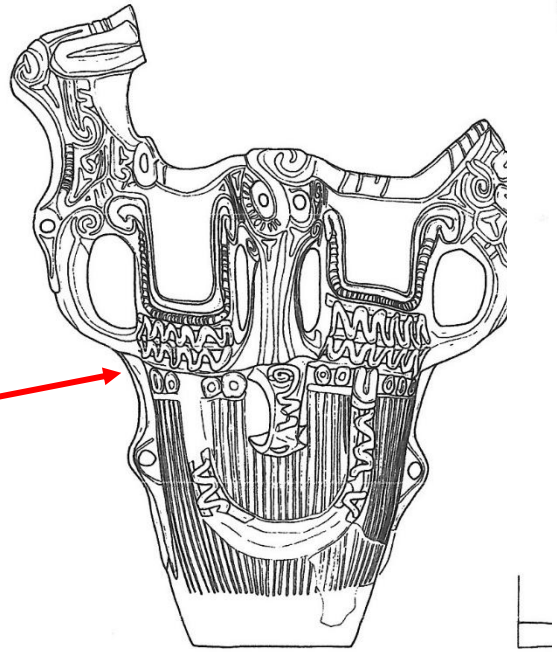
山梨県埋蔵文化財センター 1998 『甲ツ原遺跡4』

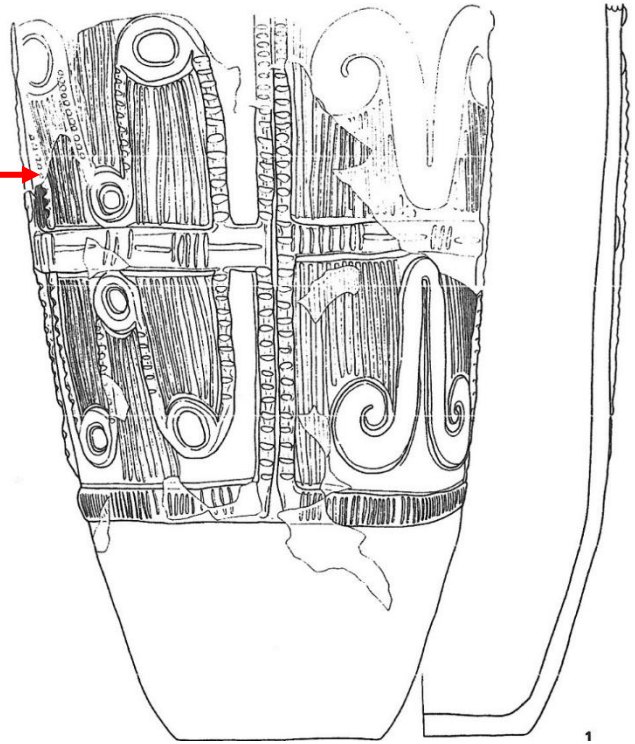
# 埋葬に転用された土器






第125図　A－7土坑（1/20）





第127図　A－7土坑出土遺物実測図（1/4

## 甲ツ原遺跡A-7土坑出土土器

山梨県埋蔵文化財センター 1998 『甲ツ原遺跡4』

# 山梨県宮の前遺跡の埋甕（倒置）



# 山梨市上コブケ遺跡の埋甕





本館蔵

山梨県立考古博物館2026『第43回特別展　中部高地に芽生えた水煙文土器とその周辺』

# 甲州市殿林遺跡の深鉢（本館蔵　重文）





本館蔵

山梨県立考古博物館2026『第43回特別展　中部高地に芽生えた水煙文土器とその周辺』

# 亀ヶ岡式土器の器種構成と過剰装飾

- 亀ヶ岡式の器種構成

精製土器：粗製土器

精製土器：

壺形、浅鉢形、碗形、高坏型、注口、香炉形、台付き鉢、皿形

（煮炊き用土器はない）⇒

装飾：磨り消し縄文、曲線的文様、透かし彫り、突起、口縁部突起列

技術：胎土の調整（水簸）、細かな縄文原体、ネガ文様の施文、浮彫的削り手法、研磨技法、突起の彫去手法

# 本場の亀ヶ岡式精製土器







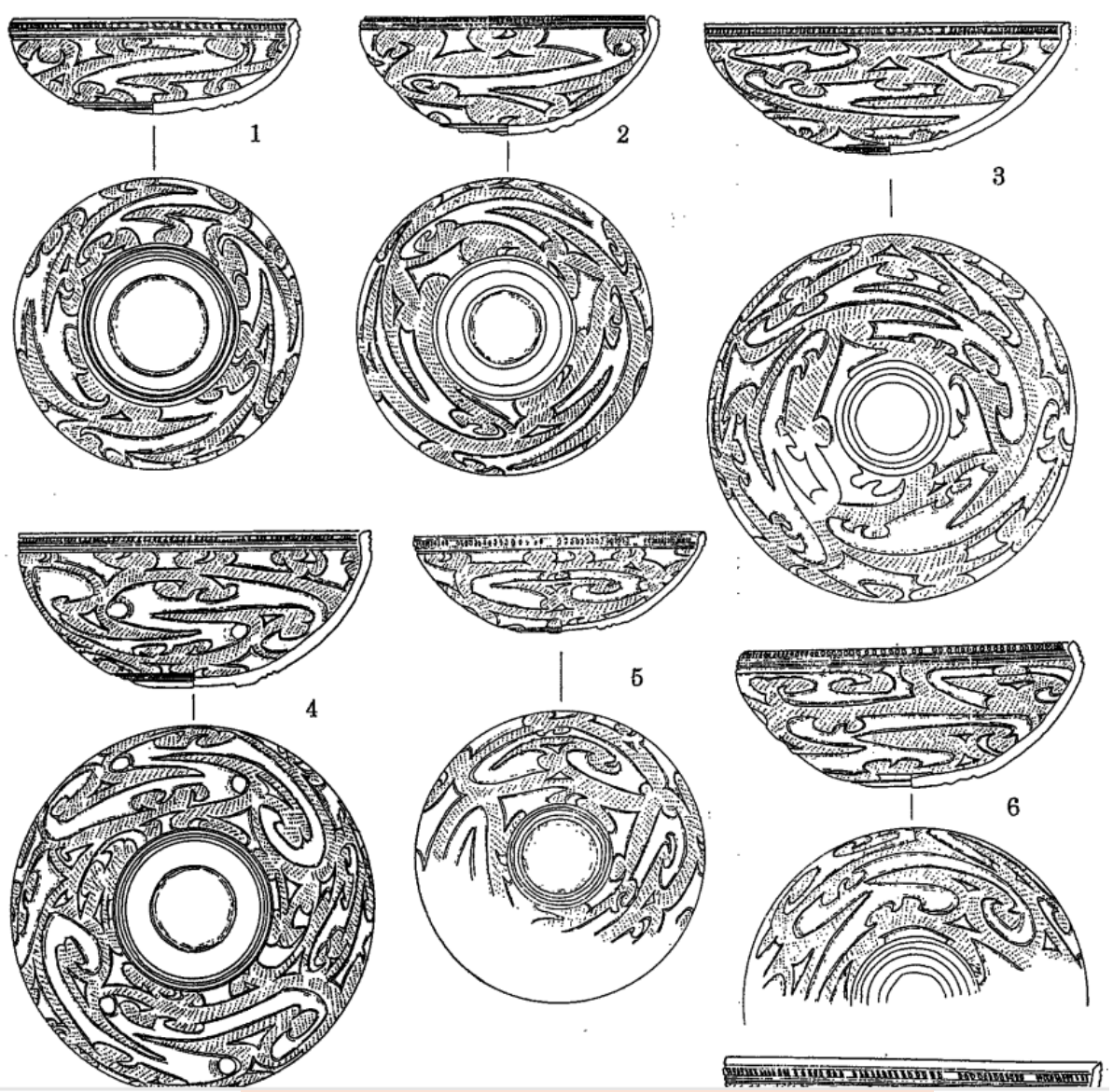




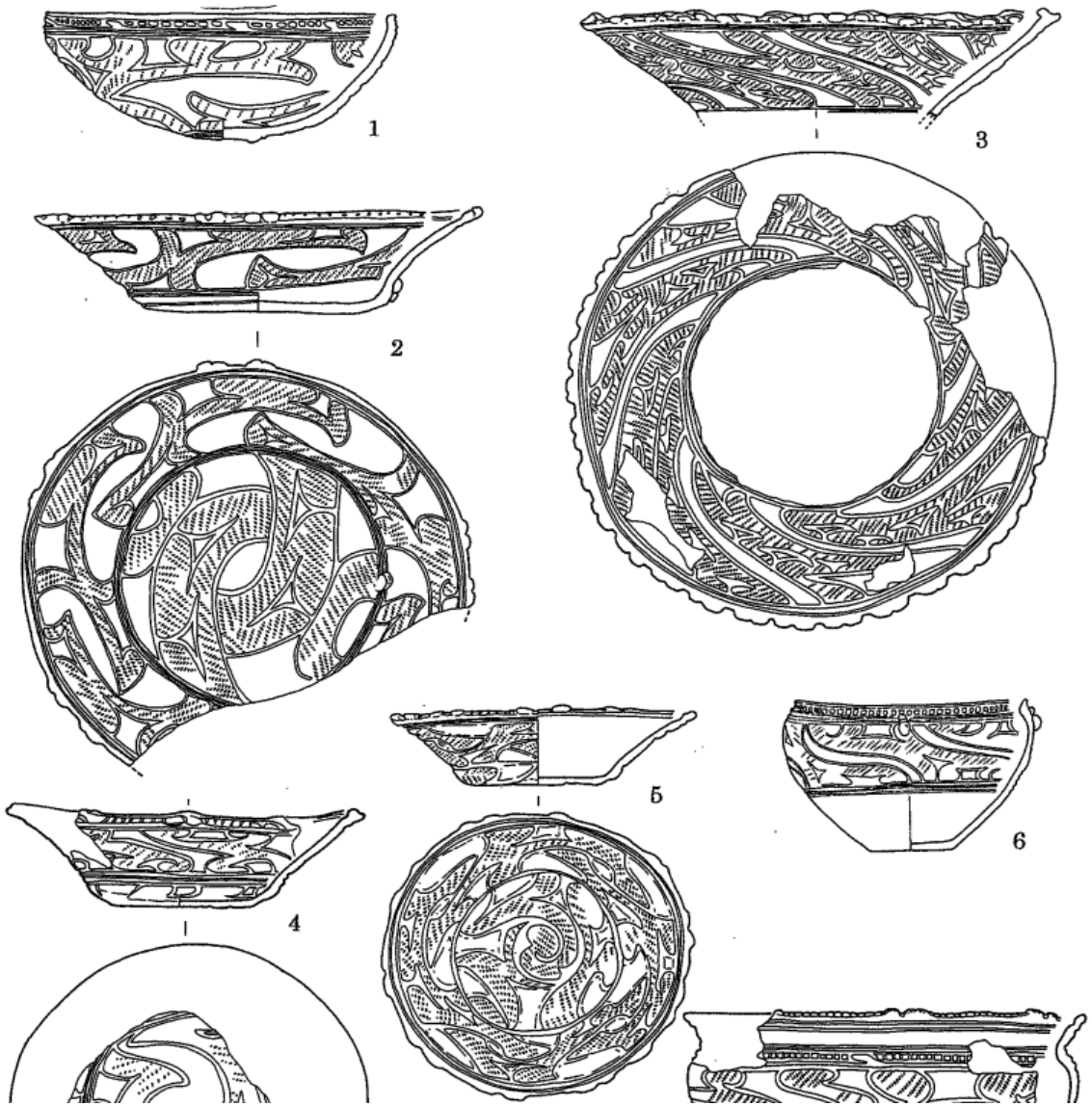


八戸市　是川縄文館等蔵

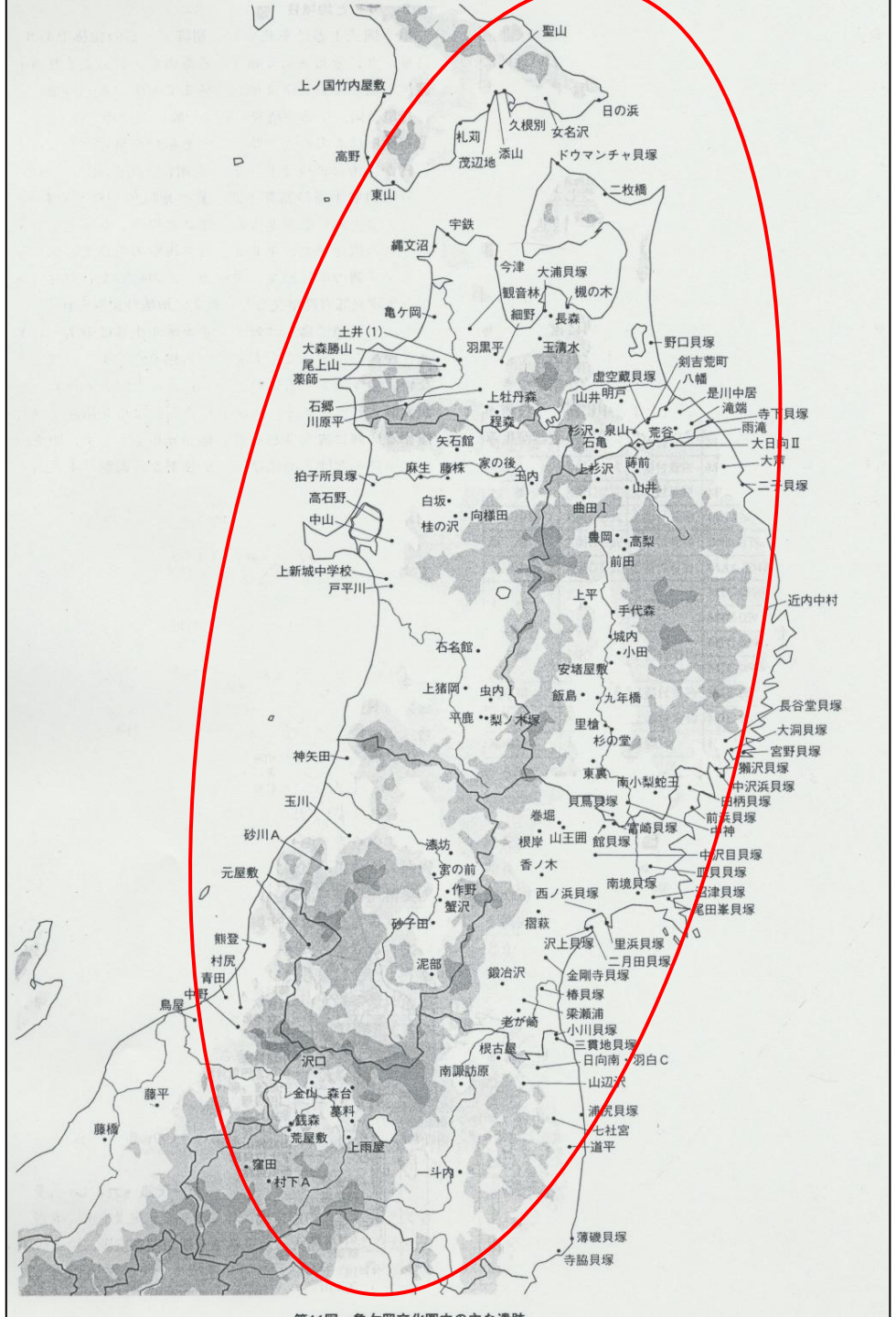
# 本場東北地方の亀ヶ岡式精製土器




青森県方面（細野遺跡）




岩手県方面




# 亀ヶ岡式の分布（東北中心）

著名な遺跡

- 青森県：亀ヶ岡遺跡　是川遺跡
- 秋田県：中山遺跡　藤株遺跡
  岩手県：大洞貝塚　九年橋遺跡
- 宮城県：摺萩貝塚　沼津貝塚
- 山形県：作野遺跡　宮内遺跡
- 福島県：寺脇貝塚
- 新潟県：延命寺遺跡
- 長野県：佐野遺跡

東北では祭祀儀礼に使用



藤沼邦彦・関根達人「亀ヶ岡式土器」『総覧縄文土器』小林達雄編2008



青森県亀ヶ岡遺跡、画像提供：東京国立博物館 http://www.tnm.jp/）

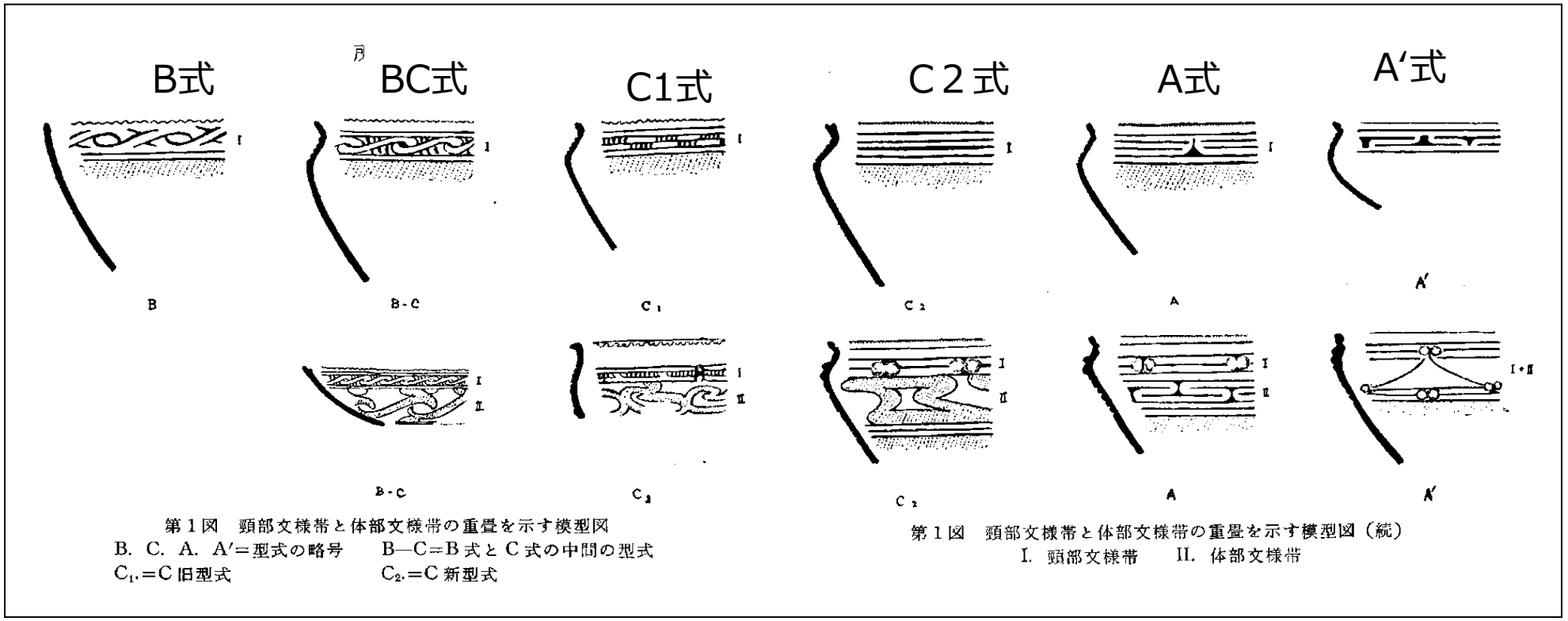
亀ヶ岡遺跡出土　東京国立博物館蔵



亀ヶ岡遺跡出土（青森県立郷土館蔵）



# 大洞式精製土器（亀ヶ岡式）の型式変遷

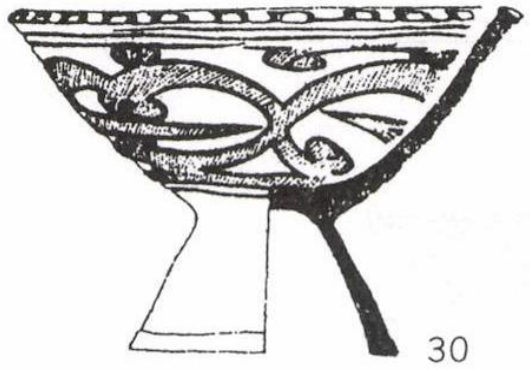


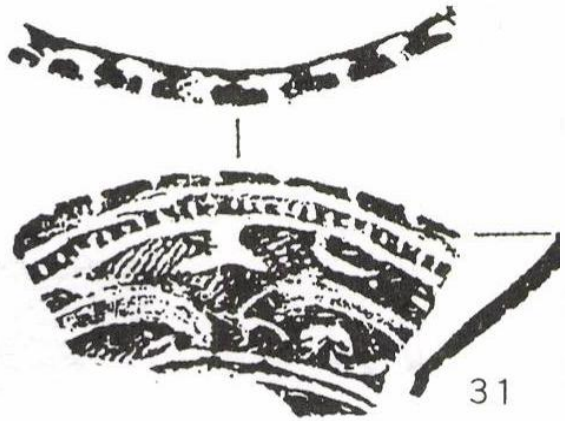

第１図　頸部文様帯と体部文様帯の重畳を示す模型図
B. C. A. A′＝型式の略号　　B—C＝B式とC式の中間の型式
C₁.＝C旧型式　　C₂.＝C新型式

第１図　頸部文様帯と体部文様帯の重畳を示す模型図（続）
I. 頸部文様帯　　II. 体部文様帯

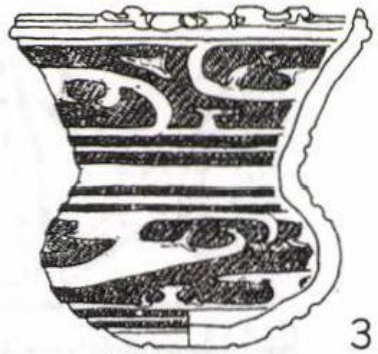
山内清男1930「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄紋式土器の終末」『考古学』第1巻3号より

# 埼玉県に移入された亀ヶ岡式

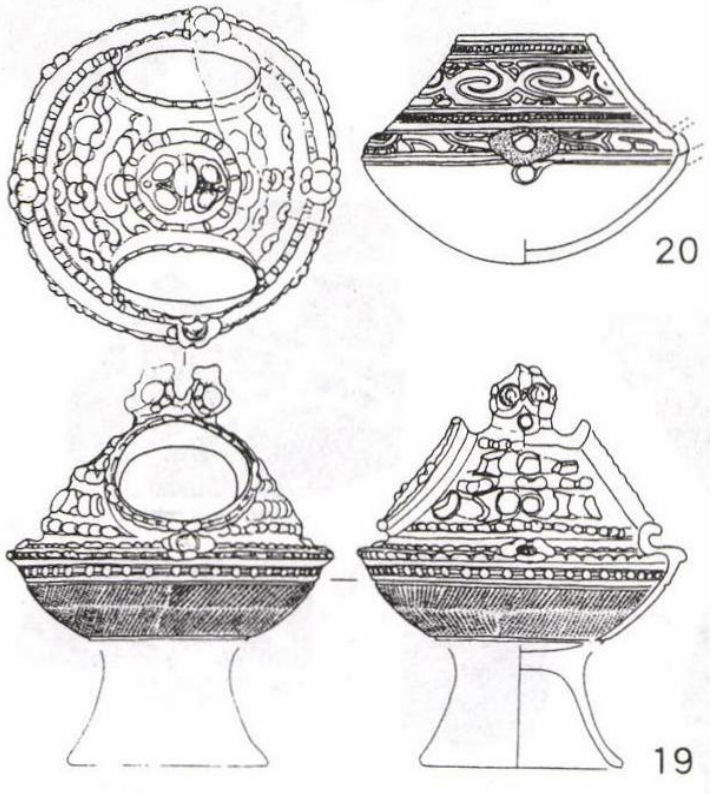


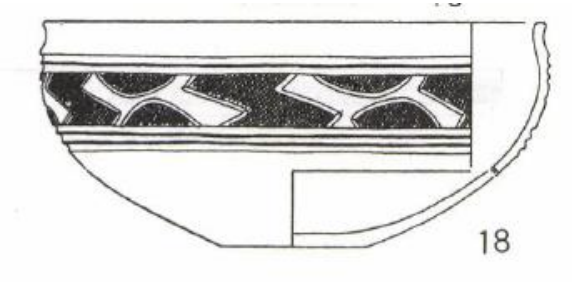

真福寺泥炭層



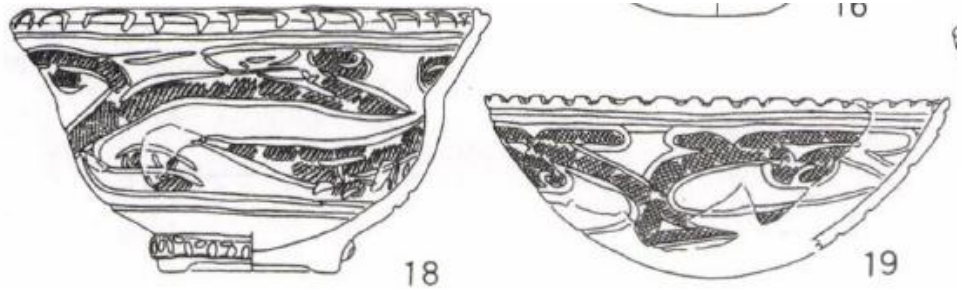

黒谷田端前




精進場

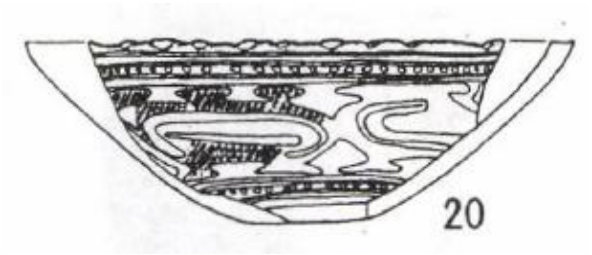



後谷




赤城

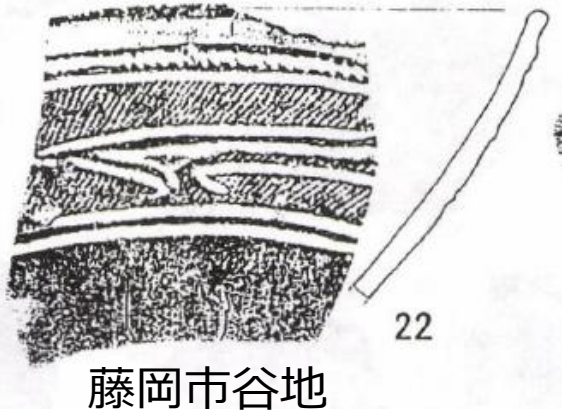
# 群馬県に移入された亀ヶ岡式



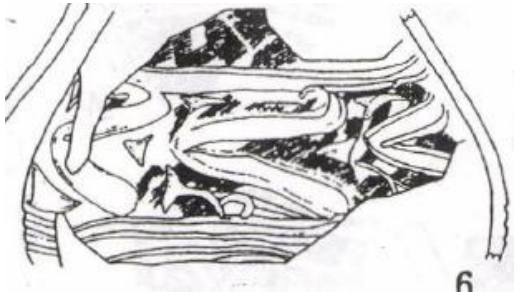

藤岡市谷地



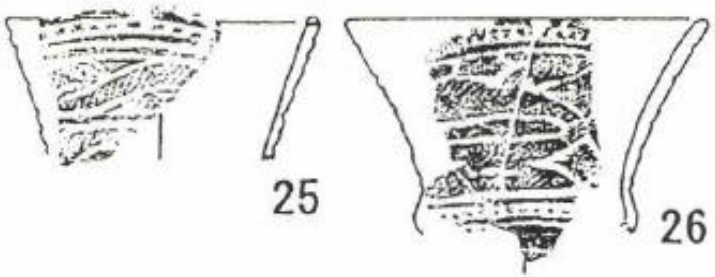

藤岡市谷地



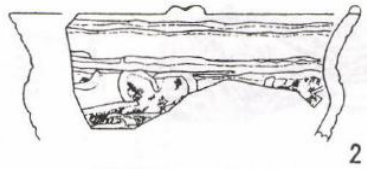

藤岡市谷地



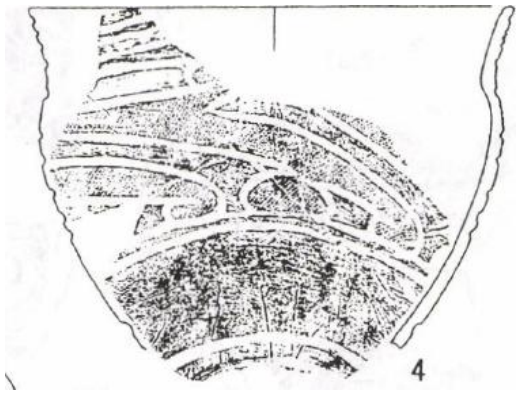

板倉町板倉




板倉町板倉



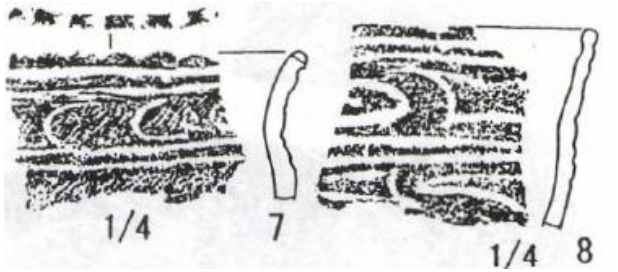

板倉町板倉



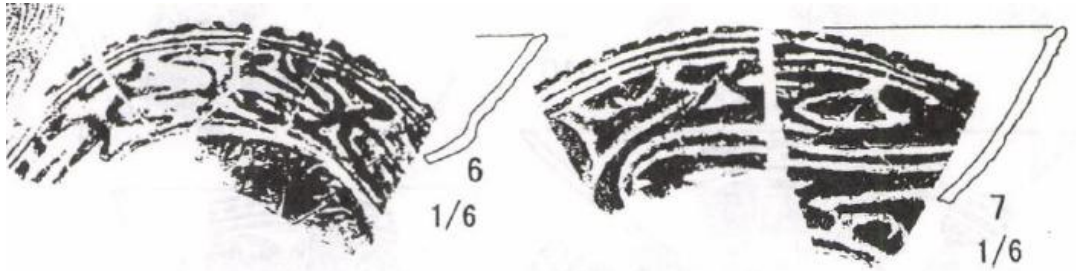

板倉町板倉



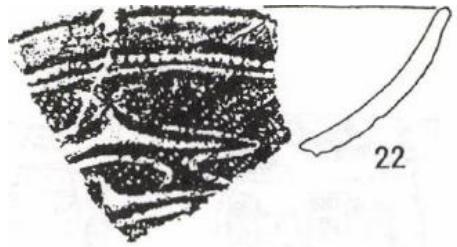

板倉町本




板倉町板倉

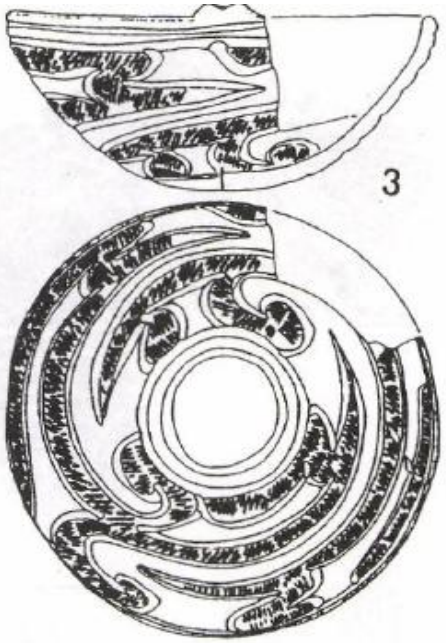



明和町矢島

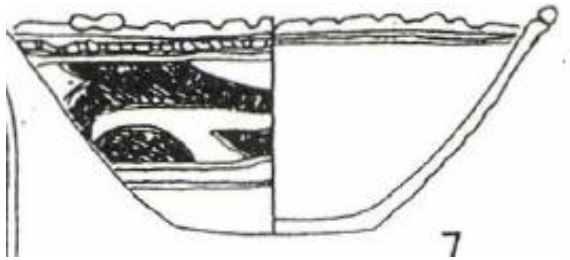


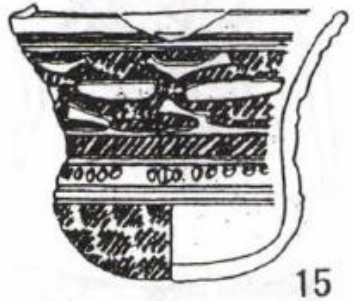

明和町矢島

# 栃木県に移入された亀ヶ岡式

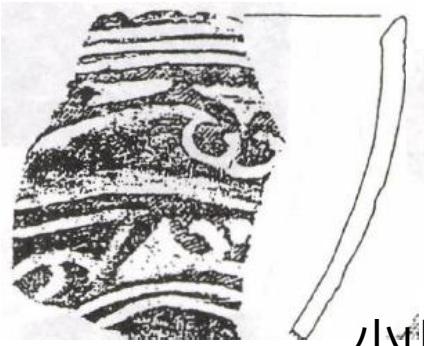



藤岡町藤岡神社




小山市乙女不動原北浦

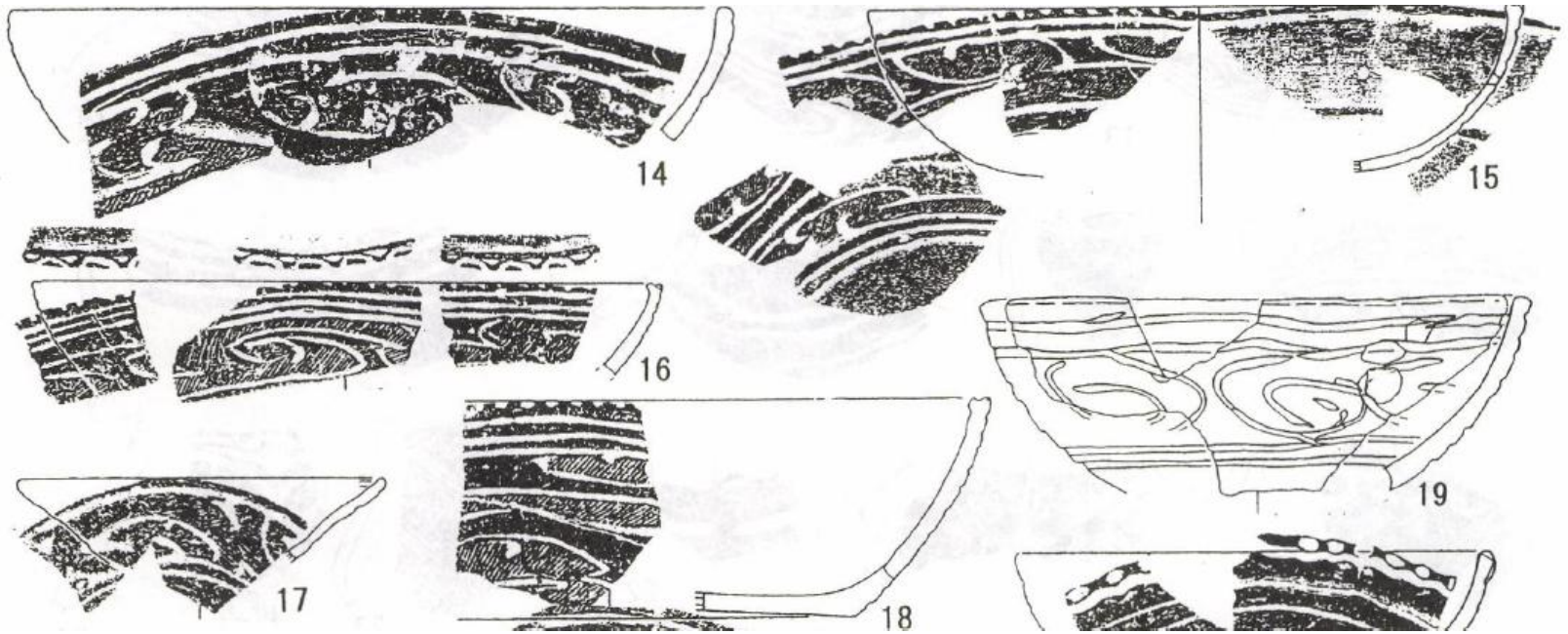





小山市乙女不動原北浦




小山市乙女不動原北浦




寺野東

# 亀ヶ岡式土器の製作



製作に手間暇をかける

1. 粘土の精選、水簸
2. 薄手の器面調整
3. 複雑な文様を施文(ネガ文様の原理)
4. 透かし彫り
5. 器面の研磨
6. 焼成後の塗漆(赤・黒)、漆の技術、顔料知識

→ 製作する専業集団

# 出土場所

- 泥炭層（是川遺跡）
- 低湿地（亀ヶ岡遺跡）
- 河床（戸平川遺跡）
- 自然堤防上（土井１号）
- 土盛り遺構など儀礼などの場所（大橋遺跡）

※竪穴住居などからは出ない

→　墓域や儀礼・祭祀の場近くから

# 亀ヶ岡式土器の宿命

- 精製土器は葬送儀礼や先祖祭祀の場で使われる。
- 使われた後は、そのまま置き捨てられる（九年橋遺跡）。一回性
- 低湿地、泥炭層、河床に捨てられる（戸平川遺跡等）
- 儀礼・祭祀終了後に回収されない（九年橋遺跡）遺棄

➡ 1回だけなら、なぜそこまで手間暇かけるのか

# 亀ヶ岡式土器の製作者は誰か？

- 儀礼・祭祀の場で使われることを前提に製作
- 儀礼・祭祀の専門的知識の保有者
- 儀礼や呪術、祭祀のノウハウを熟知し、執行する職能集団が自分自身の手で製作

土器製作者＝儀礼執行者 → 専門的職能集団

亀ヶ岡式が関東地方などに運ばれるのは、祭祀・儀礼用か

# 製作者・儀礼執行者の精神世界

土器製作者・儀礼執行者特有の精神世界（呪術、魔術）、などが想定される

理由：

死霊、悪霊、精霊、先祖霊などと交信可能性、融合

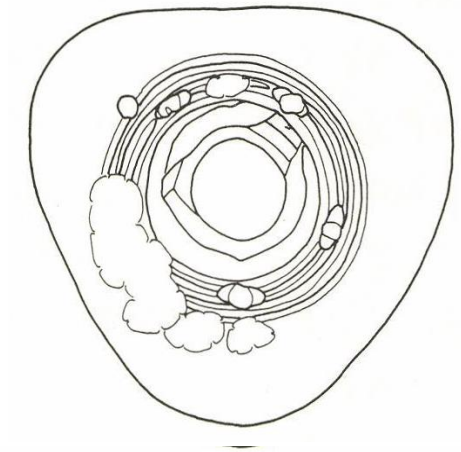
死霊、先祖霊、精霊などの慰撫

# 亀ヶ岡式土器の使用場所と役割

- 祭祀・儀礼の機会に使用
- 祭祀・儀礼で使用された後は、そのまま遺棄される⇒遺棄された状態が重要か
- 先祖霊などに捧げられた姿か
- 実際に煮炊きに使われたのは台付き鉢だけ
- それとても儀礼・祭祀の場で煮炊きに使われたのであって、日常の食生活では使われていない。

# 青森県虚空蔵遺跡出土の晩期土器

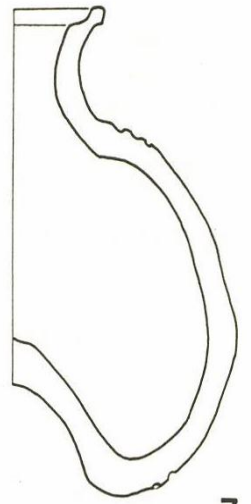


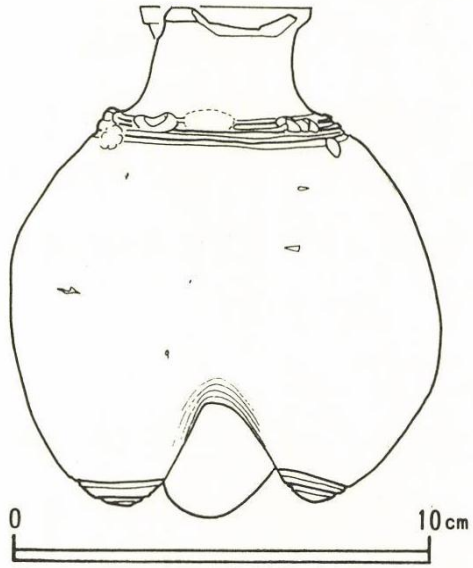












# 晩期の二足土器



北海道余市町大川遺跡



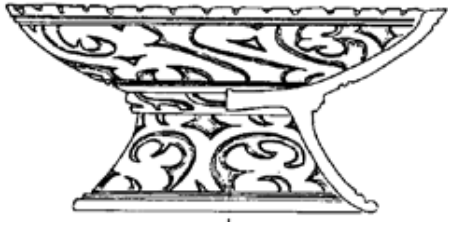

青森市玉清水（1）遺跡

# 亀ヶ岡式器種構成

- 一般的調理具の原則から大きく外れる。
- 料理の四面体のどこにも位置付けられない。
- 調理ではなくて、保存、供献用か
- 液体：壺中心、急須、
  固体：高坏、香炉形
  気体：香炉形

※液体：酒か、毒物、薬物？














# 亀ヶ岡式土器の特性

- 「料理の四面体」理論のうちには大多数の精製土器は位置付けられない。辛うじて「煮る」ラインに「台付き鉢」が位置付けられるのみ。
- 他の器種は料理（煮る、焼く、炒める）などの実用品ではない。
- 祭祀・儀礼などの機会に用いられた非実用的器物。
- 製作に手間暇かけて技術の粋を駆使して製作した土器で、儀礼時に使われて遺棄される。
- 祭祀・儀礼に最も注力した土器文化。
- 土器装飾に込められた「霊性」とは

# 亀ヶ岡式が霊性を帯びる理由は

- 人の葬送儀礼とは、各種の人生儀礼の中でも、人の「生」から「死」への移行状態を扱う特別な儀礼。
- 世界の民族誌で葬送儀礼を行わない民族はない。
- 「生」から「死」への移行には不可思議で霊的な力が関与する。
- 境界領域は特別にマークし、タブーを課して儀礼を行い、無事に通過することを願う。

⇒通過儀礼に備えた装備。容器としての器には何が盛られたのか。